（前ページ下段から）

十幾つかになってから、運転免許の試験。とうとう試験に受からんで、運転手をやめてしまった者もいるというのに、その免許証がいっぺんにパーになってしもうたつですから。

山下　ということは、一面では、会社が、だれでもつれてきて運転をやらせることもできるわけでしょう。

下川さん

下川　多少の知識さえあればですね。そのほか、なんだか新しい仕事服もやるとかいうことですよ。まあ、合併して悪かったということで、新労組員の間からガタガタいう声が出たのでは、会社としてこまりますから。

さては港務所にいっていた

田上　乗務手当というのは。

下川　運転手とか車掌などに特につけられている手当で、二十五日出て千七百円くらいのものです。もっとも新労組員のなかには月に四十万くらいやる者もいますから、かなりの額になりますが。

山下　こんどの期末手当はどのくらい。

下川　私たちで、二十二万円ばかり。

田上　うちなんか、坑内でさえ平均にもならんのに。さては港務所にいってしもうとったつばいな。（爆笑）

賃上げの差ぐらい時間外で稼ぐたん

下川　月々の賃金は、二十六方でまず七万円。うちは夫婦二人だからよかですが、新労組員には四人内外と子持ちが多く、やっぱり時間外で稼ぎながらも、十万円はとられと暮らせんですよ。その時間外手当があるから、新労組員と私たち三池労組員との間に四万円ほどの違いが出てくるわけです。だいたいこんな考え方がおもで、たとえば春闘で炭鉱は賃上げが八千五百円なのに、よそは一万五千円。「よし、それくらいの違いは時間外で稼がれる」、とすぐこう計算してしまう。

野田　その考え方は、間違いだと思うな。一年三百六十五日のうち、その三分の二の時間が会社にいることになるわけでしょう。一日八時間労働で、そして帰ってこそ家庭でのだんらんも可能なのに、それでは人間らしい生活ができないわけですね。

下川　いや月々二十五方だげ働いて、日曜・祭日には休んでそれで十万円もらえばよか、ということは知っとるとですよ。三十方、四十方を、たとえ三池新労組員の者といっても、よろこんでやりよることにはならんですよ。

物価値上げ反対で選挙運動

田中さん

田中　ホッパー闘争からこっち、私はとし甲斐もなく主婦会分会の役員ばかりやってきたですが、たしかに暮らしがきつくなってきているおかげで、主婦会の集まりもできなくなっています。「内職しよるから、集まりはでけんが、協力はするばんも」と。事実、お金を集めに歩きますと、出すべきものはちゃんと出していただく。

私は主婦会活動が、今こそ必要じゃと思いますね。もっともっと社会党に強くなってもらわにゃでけんですから、選挙のときには、一人でも…と思ってですね、「物価値上げ反対」「合理化反対」で回るとですよ。

生活は、食うしこはあります。港務所に出ている息子の給料に、よそに出ていっている子どもたちが送ってくれますけん、どうにか暮らしていけよりますたい。

今なくなったり、物価が上がったりしている砂糖やチリ紙なんかも、安かうちと思うて買うておきましたから、おかげでそうこまらずにすんどりますと。でも、灯油など「やーやー」いわんと、なかなかくれません。

一時間"百六十円也"

妻も内職の長欠家庭

松尾　うちでは、主人が私傷で七月から仕事を休んでいますから、月々の給料が五万円もありません。子どもが二人いますからまずどうしてもおこずかいが悩みのタネで、小学六年生のに月八百円、中学二年生のに千円ときめておりますけど、このころの物価値上がりが、おこずかいの値上げ要求となってハネ返ってくる始末でほんとに頭を痛めています。

山下　思えば、無理もない要求ですからね。

松尾さん

松尾　ほんとです。でも、何しろ五万円で六人の家族が食ってゆかなければなりませんし、じいちゃんと主人の好きな一ぱいだけは、ほかをゆずくってでも欠かせないのですよ。

ですから今はやむを得ず、私も近くのお店にパートで働きに出ているのです。

山下　それでどれほどになりますか。

松尾　何しろ、一時間百六十円くらいですから。

山下　月にすれば、一万円とちょっとくらいですね。

松尾　ハイ。（「安いなア」とおどろくやら、あきれるやら）ただじいちゃんが厚生年金をもらっていますから、それをもらった月に一万円加勢してもらえますので助かりまが。

ただ、下の子どもが来年中学へすすむでしょう。制服、カバン、そのほか必要なものをそろえますと、最低で三万円をくだらないのですよ。子どもは、どうやら、何かじいちゃんに買ってもらうよう約束をとりつけているらしいですけど（笑い）

山下　野菜なんかも高くなりましたしね。

松尾　おかげで、野菜は買わずにすんでいます。自家製ですじいちゃんが、コタツにばかりはいっていてはかえって体が弱くなってしまうからと、近くに畑をつくっているのです。

田上　年寄りの協力。これがよそにはないことですよ、ね。闘いのなかで苦労を共にしてきた三池の家庭だからこそ見られることで、また加勢してもらわんならとてもやっていけませんね。

松尾　とにかく、何かといえば苦しまぎれに、子どもがじいちゃんからおこずかいを、こっそりせびるんですよ。主人はじいちゃんに対して、きびしく「盆・正月以外には絶対やってくれんように」、といってはいますが。でも少ししかやれないことを思うとつい悲しくなりますけど、心を鬼にしていってやります――「私も、お父さんの少い給料のなかから、しっかり考えて家計をやりくりしているのだから、あんたたちもがまんすべきだよ」、とですね。

山下　つらいことですがね。

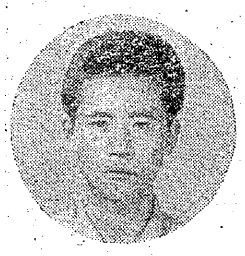
C給体制とZD

合理化攻撃、いよいよ深刻化

野田　一方職場の実態たるや、私の職種の坑内機械を例にとって見ても、C給（出来高払賃金）体制が完全に定着してしまった感じで、それと例のZD運動とが一体となって、資本の合理化を具体的に進行させてゆくテコになっています。

中東アジアの動乱を機に爆発した石油危機のため、なるほど石炭がエネルギーとして再度見なおされた感じですが、現実の労務管理の方向から、安易にとらわれる危険性をひしひしと感じます。

私たちは三池闘争のとき、「去るも地獄、残るも地獄」を合言葉に闘ったのでしたが、この言葉こそ今かみしめるときではないですかね。石炭が存続されるという一面だけ見てゆけば、C給体制とZD運動によって、われわれは足もとからバラバラにされてゆきかねないおそれさえ感じます。これとていわば、資本主義制度の全般的危機のいっそうの深まりを示す以外の、何ものでもないとは思いますが。



野田さん

体が強かったらなア……

池畑　私が一番に思うことは、体が強かったらなー、ということですね。鉱山学校卒業後など機械の重量もの（一五〇キロもあったという）を二人でかついでいました。余りのつらさに、枠にしがみついて、汗とも涙ともつかないものを流すことが常でしたが、あの大爆発に被災した今は、腰が悪くてどうにもならんのです。あの爆発に被災して、私はつくづく会社はここまで保安をサボっていたのか、と思いました。

私は四十六年に一度坑内の原職に復しましたが、体の状態がゆるさず、四十六年に、賃金の安かつを百も承知で坑外にあがりました。体を、資本家に切り売りするみじめさを、そのままつづけてゆくことを気持が許さなかったんです。

第一、食うことに苦労せんなんところまで追いつめられている現状を、腹立たしく思いますが、どうもわれわれ三池労組員も、相手側が仕組んできている枠のなかにはまりこんでしまっているように思われてならんのです。

今ほど、職場闘争のもつ意義が重大になってきているときはないと思います。

池畑さん

生産日本一なら人殺しも日本一

田上　一年をふり返って、私にも思うことが少くありません。

何といっても、坑内災害の続発で、三井独占資本は三池で、まず正月の四日に、早やばやと一人のなかまを殺しました。以来八人の命を、坑内で奪ったわけです。これは、われわれ労働者にとって重大なことです。

それにもかかわらず、会社は坑内でちょっと間違えばどんな大きな災害にもなりかねない、恐ろしい事故を続発させています。

つい師走の五日のことでした。水平坑道で、二番方勤務者用の入坑電車に、何とカラ電車が正面衝突しているんですよ。まかり間違えば、どんな大変な災害になるかわからんですよ。

三井鉱山は石炭部門の分離を、三池労組の反対も聞かず強行しま

（次ページ上段へ）